EARTHWATCH INSTITUTE

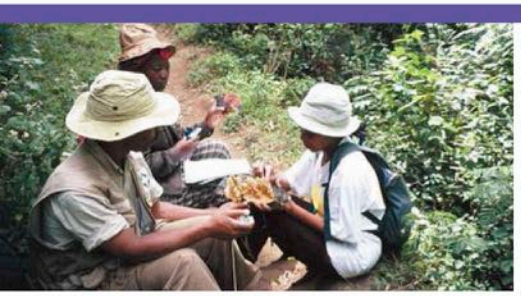
自然と調和する
こころ豊かな毎日をめざして

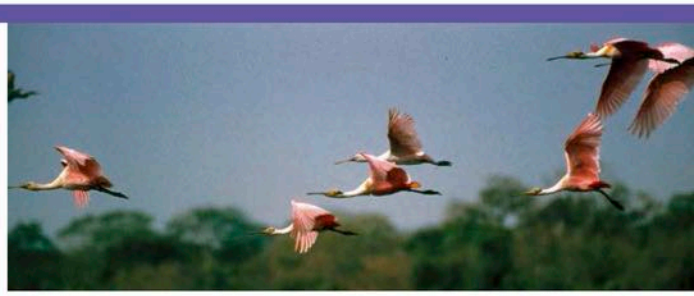
kao

花王・教員フェローシップ

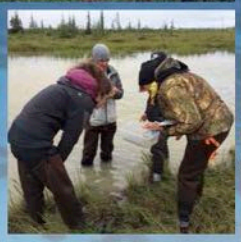
生物多様性支援プログラム

2017年度　募集要項





EARTHWATCH



地球上の多様な生命の保全のために科学的野外調査と教育を実践しています。

アースウォッチは、1971年にアメリカのボストンに設立された、野外調査へのボランティア派遣活動においては、世界で最も古く、最も信頼されている国際NGOです。世界各地で行われている生態系にかかわる野外調査を「資金と人手」の両面で支援。一般市民がボランタリーで野外調査に参加し、世界一流の科学者の手ほどきを受けながら「地球のいま」を体感する活動をおこなっています。

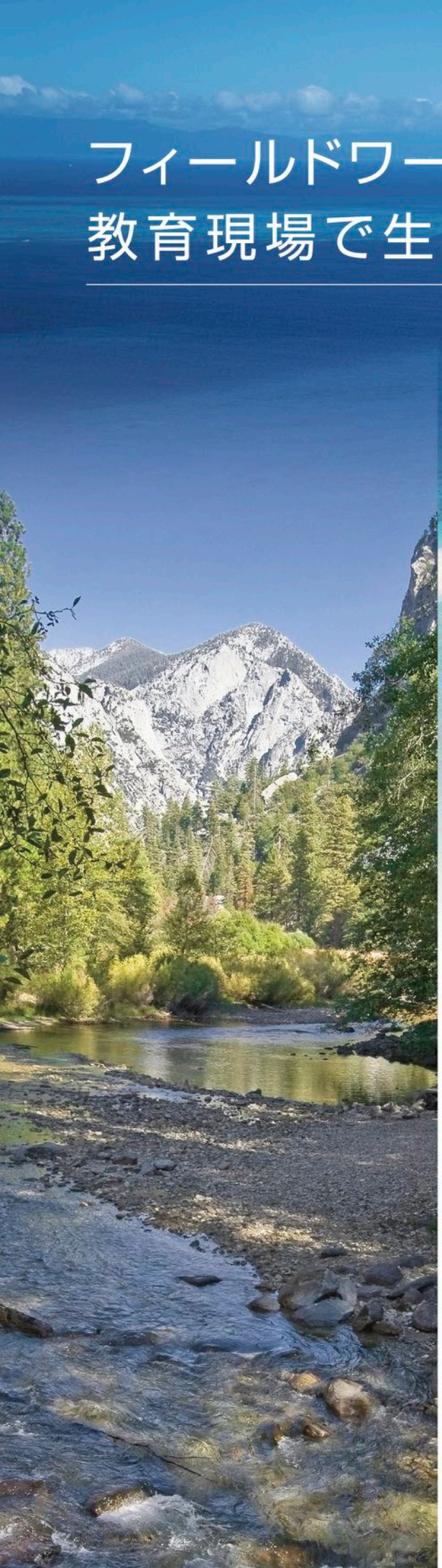
アースウォッチの最大の目的は「科学の目」で地球の変化を調査・記録し、未来のために必要な知の基盤をつくることにあります。外部の専門家による厳しい審査を経て認定された年間約60の野外調査プロジェクトを支援し、研究者との野外調査活動の一連のプロセスをきめ細やかに管理、運営しています。

欧米アースウォッチでは、企業からの資金的サポートを受け、毎年500人以上の教員をプロジェクトに派遣。この体験に裏打ちされた授業は、子供たちにより大きな感動をあたえ、実践的な科学の理解力を高めるために最適であるという報告が多くの教員から出されています。

アースウォッチ・ジャパンは、1993年にアースウォッチの世界4番目の拠点として発足しました。「花王・教員フェローシップ」では、野外調査の実体験および科学的調査手法の取得、科学の専門家や海外の参加者などとのネットワークづくりや異文化交流、非日常的な体験を通じた達成感など、生涯忘れることのできない貴重な経験が得られることでしょう。

認定特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン

フィールドワークの体験を
教育現場で生かしていただくために。



海外の野外調査プロジェクトへ
ボランティアとして参加する機会を提供します。

花王株式会社と認定特定非営利活動法人アースウォッチ・ジャパンの協働で、第14回「花王・教員フェローシップ」を実施いたします。「花王・教員フェローシップ」は、夏休み期間1～2週間程度、先生方を生物多様性保全に向けた海外の野外調査にボランティアとして派遣し、その体験を教育の現場に活かしていただくプログラムです。米国に本拠地をおく国際NGOアースウォッチの日本支部アースウォッチ・ジャパンがボランティア先のプロジェクトを選定し、花王が支援いたします。

環境教育のお手伝いを通して
積極的に社会貢献活動を推進しています。

花王は、「次世代を育む環境づくりと人づくり」をテーマに社会貢献活動を推進しています。その中でも、特に次世代を担う子ども達を育てるキーパーソンである学校の先生方を応援するプログラムは、重要な社会貢献活動だと考えています。

このプログラムは、環境教育の実践者である先生方の、異文化の中での野外科学調査の体験を支援するものです。一流の科学者のもと、野外調査を通じて得た、生物多様性への理解や自らの感動や体験を、地域や学校で特色ある環境教育の実践に結びつけていただくことを目的としています。

さらに、科学の専門家や参加者とのネットワークづくりや異文化交流、多様性の理解など環境教育の視点だけでなく、日常生活の中では得ることのできない多くの経験を、教育の現場で子ども達へ伝えていただきたいと思います。

花王株式会社

花王・教員フェローシップ
生物多様性支援プログラム

プログラムの概要

支援内容

①海外野外調査プロジェクトの研究分担金（参加費約30万円）
（調査期間中の食費・宿泊代・移動費を含む）
②参加にかかる費用の補助 10万円
（渡航費、装備品購入費、査証代など使途自由）

野外調査プロジェクトの内容と現地活動期間

生物多様性に関する下記プロジェクトの中から選択（各2名）

○カナダの荒野でオオカミ、山火事、バイソンの調査
8月 2日～8月11日（10日間）
○アラスカのラッコと海草 8月 4日～8月13日（10日間）
○モンタナ州の気候変動がハックルベリーとハイイログマに与える影響
8月 6日～8月12日（ 7日間）
○モンゴル大草原の野生生物 8月 6日～8月19日（14日間）
○アドリア海のイルカ追跡調査 8月 7日～8月16日（10日間）

支援に含まれないもの

日本国内交通費、現地集合場所までの渡航費を含む交通費・食費、海外旅行保険代、査証（ビザ）申請費用、予防接種費用、調査中の個人経費（電話・洗濯等）、活動外の経費（観光・土産等）等

参加者にしていただくこと

①集合場所までの交通の手配、査証の取得、予防接種など。
②出発までに義務付けられている書類の提出。
（英文の参加申込用紙、健康証明書、免責承諾書、旅程表）
③野外調査に参加し、研究者の指示に従って作業に従事する。
④帰国後1カ月以内に体験報告書を提出する。
⑤学校（および、できれば地域（他校など））での報告会の実施。
⑥プロジェクト参加報告会への参加。（10月頃、東京にて開催予定）

体験を通して得られるもの

○野外調査の実体験
○専門家による調査テクニックの習得
○他国の参加者やスタッフ等との国際文化交流経験
○科学の専門家や異業種の人々とのネットワーク
○国際的なグループ活動での協調性の大切さ
○非日常体験の困難を克服する達成感

その他

○プロジェクトは現地集合・解散です。プロジェクト日程だけでなく、前後のフライトの日程も合わせて計画してください。
○調査はすべて英語で実施されます。現地で合流するまでの旅程、プロジェクト期間中の生活において、日常会話程度の英語力は必須です。また、調査内容の理解に加えてフィールドにおける安全対策の実施を徹底させる観点から、英語によるコミュニケーションスキルも必要となります。
○調査活動はおもに、大自然の中での野外活動です。
○プロジェクトは変更あるいは中止になる場合があります。

応募要項

募集対象者・募集人数

小学校、中学校の教員（担当学年、科目を問いません）10名

応募方法

所定の応募用紙（添付）に必要事項を記入の上、論文を添付し、下記へご送付下さい。郵送、メールのいずれでも可。

＜論文＞

テーマ：「学校教育の現場で環境教育を進めるうえで、
自然観察や自然体験がどのような意味があると考えるか。」
現在ご自身が学校で実践していること、プロジェクト参加後
その体験をどのように学校・地域で実践したいかについて
具体的にお書き下さい。

字　数：1000字～1200字（A4縦用紙横書き）
○応募期間：2017年3月1日～4月10日（当日消印有効）
○応 募 先：アースウォッチ・ジャパン 花王・教員フェローシップ係
〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学大学院農学生命科学研究科
フードサイエンス棟4階
Tel:03-6686-0300　e-mail:info@earthwatch.jp

選考の方法と期間および結果の通知

○花王・教員フェローシップ選考委員会において書類選考を行い、応募者に対して、選考結果を文書にて通知します。
○選考会は、2017年5月上旬に実施します。

＜選考委員＞

委員長　石田 秀輝（東北大学 名誉教授）
委　員　今井 通子（登山家）
浦辺 徹郎（アースウォッチ・ジャパン理事長）
石渡 明美（花王株式会社 執行役員
コーポレートコミュニケーション部門統括）

応募に際しての注意事項

○万が一、参加が不可能になった場合には、速やかに事務局までご連絡ください。
○現地での傷害、けが、紛失や盗難などに関するトラブルは全て自己の責任であり、それらにかかる費用は自己負担となります。

EARTHWATCH INSTITUTE　kao

2017年実施プロジェクト一覧

各プロジェクトの詳細は、アースウォッチ・ジャパンHPをご覧下さい。
http://www.earthwatch.jp

カナダの荒野でオオカミ、山火事、バイソンの調査

– Restoring Fire, Wolves, and Bison to the Canadian Rockies –

オオカミと山火事が生態系保全に果たす役割を解明する調査

【活動期間】2017年8月2日～8月11日（10日間）
【調査地】カナダ、アルバータ州ウォータートンレイクス国立公園
【ボランティアの役割】北アメリカの代表的な野生生物であるオオカミ、グリズリーベア、オオツノヒツジ、ワシなどが数多く生息しています。ボランティアは、徒歩で調査区画内の樹木を測定したり、野生生物の痕跡調査を行います。道無き道を1日に10～20km歩くこともあります。
【宿泊施設等】山々の頂と美しい湖を望む山間の魅力的な町、ウォータートンビレッジにあるウォータートンレイクス国立公園のリサーチハウスに宿泊します。食事はチーム全員で作り、新鮮なサケ、バイソン、果物や野菜など、多くの地元産の有機食品を味わえます。

アラスカのラッコと海草 – Sea Otters and Seagrass in Alaska –

アラスカ南東部の海草の生息地を維持するためにラッコが担う役割を調査

【活動期間】2017年8月4日～8月13日（10日間）
【調査地】米国、アラスカ州プリンス・オブ・ウェールズ島
【ボランティアの役割】ラッコの数を数えたり、調査区画の設置や海草の株の計測、サンプル採集などを手伝います。また藻場に生息する魚の数を数え、種を識別するため、地引網の設置を手伝います。ラボでは海草のサンプルを一定の手順に従って処理・仕分けし、種の識別用に保存します。
【宿泊施設等】調査地のキャビンやアパートに泊まります。朝食と夕食は研究者とボランティアが協力して宿泊施設で作ります。自由時間に採った魚やベリーをグループの食事に取り入れることもできます。

モンタナ州の気候変動がハックルベリーとハイイログマに与える影響

– Climate Change, Huckleberries, and Grizzly Bears in Montana –

モンタナ州のハイイログマやその他の動物種にとって、欠かすことのできない重要な食料であるハックルベリーに気候変動が与える影響を理解する調査

【活動期間】2017年8月6日～8月12日（7日間）
【調査地】米国、モンタナ州フラットヘッド国有林
【ボランティアの役割】水・気温・受粉に起きている変化が、ハイイログマ等の食料になるベリー類の数にどのような影響を与えているのかを知るため、ベリーの数を数えたり、遠隔操作カメラを使ってハックルベリーを食べている哺乳動物種を識別したり、調査地でミツバチと関係のある顕花植物を識別します。
【宿泊施設等】フラットヘッド峡谷内の一軒家に宿泊します。電気、冷蔵庫、インターネット接続が利用できます。部屋には二段ベッドかツインベッドがあり、調査スタッフとボランティアは一緒に主に地場産の有機食材を使って夕食を作ります。

モンゴル大草原の野生生物 – Wildlife of the Mongolian Steppe –

ハリネズミからシベリアンアイベックスまで、草原に生息する動物たちの生態を調べ、生息環境を保全する調査

【活動期間】2017年8月6日～8月19日（14日間）
【調査地】モンゴル、イフ・ナルティーン自然保護区
【ボランティアの役割】アルガリヒツジ、アイベックス、ハリネズミ、ヘビ、チョウゲンボウなどの無線追跡調査を手伝うほか、網を使うアルガリとアイベックスの捕獲作業や罠を使う小型哺乳類と無脊椎動物の捕獲、ヘビを対象にした無線タグの装着など、様々な作業を手伝います。
【宿泊施設等】キャンプではテントか伝統的なモンゴルのゲルに滞在します。コックがボランティアの食事の大半を料理しますが、昼食はフィールドに持って行くお弁当を自分で作ります。伝統的なモンゴル料理やアイラグ（発酵したロバのミルク）、モンゴルスタイルのバーベキューなどを試す機会もあります。

アドリア海のイルカ追跡調査 – Tracking Dolphins in the Adriatic Sea –

ボートでアドリア海に乗り出し、イルカを探し、その行動や周囲の環境データを記録する調査

【活動期間】2017年8月7日～8月16日（10日間）
【調査地】スロベニア、南西沿岸
【ボランティアの役割】イルカの群れの GPS 位置座標、群れの大きさ、行動（例えば、摂食や移動など）を記録したり、ウミガメを記録します。終日、定時間隔で、水温、海水の透明度、海の状態、GPS 位置座標などの変数の記録も手伝います。また、写真によるイルカやクジラの個体識別なども行います。
【宿泊施設等】アドリア海に張り出した半島の先にある、歴史のある町ピランのアパートに滞在し、チームメートや研究者と一緒に好みの食材を選んで皆で料理をします。時には、お弁当を作ってフィールドへ持って行ったり、地元のレストランへ食べに出かけることもあります。

いっしょにeco

認定特定非営利活動法人
アースウォッチ・ジャパン

〒113-8657　東京都文京区弥生1-1-1
東京大学大学院農学生命科学研究科 フードサイエンス棟4階
Tel: 03-6686-0300　http://www.earthwatch.jp

花王株式会社

〒103-8210　東京都中央区日本橋茅場町1-14-10
Tel: 03-3660-7057　http://www.kao.com/jp/

VEGETABLE OIL INK

写真は、アースウォッチの許可の上使用しています。

2017年2月発行